



Ken Motoki

楽しいキャンパスに

副学長 元木 健

奥田眞丈先生の後をうけ、この4月から副学長に任命されました。

本学は、学校法人川村学園の理事長・学園長が同時に学長であり、その関係で学長は目の本部にいらっしゃることが多いので、学長の代理として大学のまとめ役をするようにとのご指示でした。

もとより、私は奥田先生のような偉大な指導者という人柄ではありませんので、まあ皆さんの叱られ役なら務まるかなと思っている次第です。

しかしながら、今日の大学をめぐる客観的状況はきびしく、じつはその重責に耐えかねるほどです。本学も平成11年度から大学院、平成12年度からは新学部の創設を目指し、大学のみならず学園の命運をかけた計画が進行しています。この規模の大学に見られない容積と設備をもつ図書館も建設中です。しかも、

18歳人口が激減して行くなかで、いかにして入学者を確保するかということ、一方で国や地方自治体の財政難で、私学への助成金の削減が云々されている状況など、大学の経営に難しい課題が山積しています。

幸い、川村学園は理事者のこれまでの経営努力によって、日本の私学のなかでは際立って健全な財政を維持してきましたが、これからは、いろいろと経費節減を図らなければならない部分が出てくると存じます。

しかし、どのような状況のもとであろうとも、大学として質の高い教育サービスを提供すること、学生諸君がこのキャンパスで楽しく有意義な毎日を過ごせること、そしてこの大学に来てよかったとほほえみと実感してもらえ、そのような大学に行きたいと、その条件整備と環境醸成のために、日々全力を注ぐつもりであります。



古閑永之助
Einosuke Koga
心理学科教授

女子ばかりの学生に対する講義は始めてなの
で、少々とまどいを感じる。それよりも何より
心配なのは、こんな年寄りの話を聞いてくれる
かどうか、未だ気がかりは解けていない。何せ
この頃人気のある芸能人の名前などはほとんど
知らないし、そのような人々が出ているテレビ
ドラマや歌番組やCD等も、見ない聞かない面白
くない、したがって覚えないというわけである。
もちろん記憶力の低下もある。しかし、私の専
門の精神医学や、心理生理学に対する一般の関
心は以前に比べるとずっと高まってきているよ
うに感ずる。社会の隅で一部の研究者が細々と
仕事をしている時代は過去のものとなり、心に
まつわる病気や脳の科学に対する関心も以前よ
り高まっている。また一方で、社会全般に“こ
ころ”が絡むトラブルが表面化してきたことも
事実で、少年達の中にも信じられないような精
神状況が広がっていることを否定できない。精
神医学が直ちに有効な理解やでてを持っている
わけではないが、多くの人々が人間の心の深
層にたいする理解を一步でも進めることが出来
れば、この困難な状況の解決に役に立つものと
考える。触れたくない世界かもしれないが、普
通でない心の世界にわずかででも接点を持つ機
会を提示したいと考えている。



吉田章宏
Akihiro Yoshida
心理学科教授

1934年(昭和9年)に、東京・神田で生まれま
した。日米開戦の年(1941年・昭和16年)に、国
民学校(いまの小学校)に入学しました。戦時中、
戦災や疎開で、国民学校を5回も変わりました。
今でも新しい環境に慣れたいのが早いは、その
おかげかも知れません。中学は千代田区立今川
中学、高校は都立日比谷です。東京大学教育学
部教育心理学科を卒業し、フルブライト留學生
として米国イリノイ大学大学院で学び、Ph.D
(博士号)をいただきました。初めての勤務先は
コーネル大学でした。ついで、お茶の水女子大
学、東京大学、そして岩手大学を経て、この4月
から、川村学園女子大学の文学部心理学科スタ
ッフの一員に加えていただくことになりました。
教育心理学と発達心理学の担当です。これを機
会に、「教育と発達」の問題について、じっくり
考えて行きたいと思っています。放送大学のTV
『教育の心理』(今年の第一学期は、火曜夜の10
時半から)を、客員教授として担当しています。
テキストは『教育の心理』(日本放送出版協会)
です。また、読みやすく書く努力をした著書
『子どもと出会う』(岩波書店)もあります。お
ついで折お読みくだされば、嬉しく思います。
心理学を、真面目に、誠実に、しかし、楽しく、
学生さん方と一緒に学び続けて行きたいと願っ
ています。川村学園女子大学での多くの人々と
の出会いを楽しみにしています。どうぞ、よろ
しくお願いいたします。

新しい顔



高良 聖
Kiyoshi Takara
一般教育課程助教授

はじめまして、高良です。就任前は栃木県に
ある獨協医科大学精神神経科で臨床心理士の仕
事をしていました。専門は、臨床心理学。主に、
グループアプローチによる心理療法を実践、研
究しています。最近の関心は、幼児虐待の母親
へのサイコセラピーで、広く家庭教育について
考えをめぐらせているところです。実際に私の
担当している教職課程の授業では、学校と家族
に関する様々な主題を具体的事例を通して考え
るようにしています。結構おもしろい授業であ
ると自負していますが、まあ直接、履修した
学生に聞いてみて下さい。私の勝手な思いこみ
だったらごめんない。趣味は、映像と音に浸
ること、そして写真少々。スポーツは一通り、
フリスビーからテニス、スノーボー、ゴルフまで
浅く広くをモットーにやっています。要するに
一つも極められないのです。私って……。誇れ
ることは、関東において阪神ファンを続けてい
ること(アンチ巨人なのだ)。好きなことば「棚
からばちもち」、嫌いなことば「努力」。とい
うわけで、まだまだ発展途上の私ですが、今後と
もよろしくお願いいたします。



岡田 裕
Yutaka Okada
情報教育学科助教授

教育学部情報教育学科で、コンピュータ基礎
演習科目やメディア基礎科目を担当しています。
川村学園では本部調査室、短期大学生生活学科
をへて、今年4月から女子大学教育学部にお話に
なっています。専門は情報教育、教育メディア
論、教育方法学です。学部時代は数学を学ん
でいたのですが、高校の授業と大学の講義との落
差に驚いているうちに、大学の数学には落ちこ
ぼれてしまいました。そのとき、先生の考え方
やこどもの学び方のスタイルの違いに興味を持
ちました。そこで大学院では、この教え方や学
び方を研究しようと教育方法学を専攻しました。
具体的には、映像は同じでナレーションが一部
異なる複数の実験番組を制作しての効果を比較
検討したわけです。どのような特性のある子ど
もたちに、どのようなナレーションのつけかた
をすれば、どのような理解が促進されるのか、
また阻害されるのか等を、適性・処遇交互作用
の分析という手法を使って研究していました。
コンピュータとの出会いはこの頃で、統計処理
の道具として大型や中型のコンピュータを使っ
ていました。家庭や小学校・中学校でもかっ
ての教育テレビの導入と同じように、インター
ネットが続々と入ってきています。人々の学び
のスタイルが、印刷メディア、放送メディアから、
インターネットに代表されるマルチメディアに
大きく変化し始めているのが、皆さんが今すぐ
している、今日このごろなのです。現在は、学
びのメディアとしてのコンピュータ、情報と人
の幸せ、こんなことに興味を持って研究してい
ます。気軽に研究室にお寄りください。



鈴木賢司
Kenji Suzuki
英語英文学科講師

私は、「進駐軍」という言葉がまだ不自然さ
を感じなかったころ東京で生まれ、「ダッコチャン」
と「フラフープ」で遊び、「チロリン村とく
みの木」を初級の通信教育に育てました。中
学校の時から英語が好き、特に教えることは大
好きでした。安保闘争、大学・高校紛争という
時代の影響もあったのでしょう、学生時代の一
時期、外交官を目指したこともあったのですが、
結局、大学院を出るときには僻地教育を志し、
丹沢山地の麓で中学校の英語教師として社会人
第一歩を歩きました。しかし、その地方の方
言が多少身についたころには、東京に戻り、今
度は都立高校で十年以上英語を教えた後、1年
ほど福島大学や川村短大で非常勤をし、そ
して前職の川村短大で専任になりました。こんな
経歴からもお分かりになるでしょうが、私の専門
領域は「英語教育」、それに「時事英語」です。
趣味は? 若いときはスキー、テニス、アー
チェリー、バドミントンなど「体育会系」だっ
たのですが、今は教会建築、それもヨーロッパ
中世初期の教会を見るのが趣味のようなもの
になっています。もっとも、最近は行く機会
がないので、もっぱら写真やビデオで楽しん
でいます。なぜか「ドラえもん」も好きです。



西川 誠
Makoto Nishikawa
史学科講師

私は、本年4月、文学部史学科に着任しまし
た。専門は日本近代史で、明治初期の政治史・官
僚制度の形成を研究しています。最近
は木戸孝允の行動や木戸派の政策構想に興味を持
っています。近代史は明治維新以後120年余を対
象としています。皆様のご家庭・ご親戚に史料
が眠っていましたらお知らせください。喜んで整
理にお伺いします。趣味は、能楽・歌舞伎鑑賞
と読書(日本の推理小説)。能楽は、学生時代は
やる方も兼ねていて、シテ方観世流・小鼓方幸
流の先生に習い、「千手」という能のシテ(主役)
も務めました。最近はおまかせ鑑賞で、それも
間遠になっています。3月までは宮内庁に勤め
る公務員で、昭和天皇の御役記を編集していま
した。環境が大きく変わり異邦の騎士となっ
て、まだ眩暈が続いているような状況です。学
生の皆さん、注文をつけるのは今の内だと思
いますので、どしどし言ってください。



斎藤直子
Naoko Saito
史学科助手

今年の4月から、史学科の助手をしています。
専門は、日本中世史で、特に中世の港町の景観

を復元したり、現在までにどのように変化して
きたのか、その理由は何で、どういう人がか
かわっていたのか、等々、調べています。川村
学園女子大学がある辺りも、専門上、興味深い
点がいくつかあります。どうして駅の名前が天
王台なのか、八幡神社がこれだけ集中してい
るのは何故か、「下ヶ戸」の「戸」はよく言わ
れるように「津(港)」の発音が変化したのか、
それにしてもこの辺りには「〜戸」という地名
が多いな、などなど。こんなことを考えなが
ら、駅と大学を往復しています。もう少し大学
の周辺にまで足を伸ばすと、さらにいろいろ
とわかるかもしれません。なにか面白いアイ
デア・情報がありましたらお寄せください。大
歓迎です。



刑部育子
Ikuko Gyobu
心理学科助手

今年、4月に心理学科の助手となりました、
刑部(ぎょうぶと読みます。)です。2年ほど
前に取手市の方へ越してまいりました。昨年
度まで常磐線で取手から大学院に通っていま
した。常磐線にのり、取手を出発してまもなく
すると川村学園女子大学が見えます。この度、
川村学園女子大学でお世話になることになり
まして、ようやくこの付近の土地が自分の生
活の場所だと実感するようになりました(その
前は20年も同じ場所に住んでいたの、ここが
自分の生活空間という実感がなかなかでず
にありました)。自分自身の研究関心は、様々
な実践(集団、他者との関係性)の中で人がど
のように学び、どのように変わっていくのか、
そのプロセスです。学習や発達をテーマにし
ています。そういった意味で川村学園女子大
学の中で私自身がどのように変わっていくの
かも楽しみです。趣味はこれといつてもあり
ませんが、滞在型の旅行が好きです。その土
地の人たちがどんな暮らしをしているのか、
そういったことにふれるのが楽しいです。自
分と異なる生き方をしている人たちから学ぶ
ことは実に大きなことです。初めての仕
事なので緊張しておりますが、みなさんに親
切にご指導していただいておりますので、思
ったよりも早くなじめたような気がします。



松濤春菜
Wakana Matunami
史学科学生研究室

本年度4月より、史学科研究室の教務補助
を勤めさせていただくことになりました。中
学、高校、大学と川村学園で学び、97年に
本学科を卒業いたしました。卒業後の1年間
は在学中から史学と並行して学んできた僧
侶取得のための勉強を京都の知恩院、東京
芝の増上寺で行っていました。しかも頭を
剃って! (ちなみに法名は祥蓮です。)しか
し、私はこの1年、特別な勉強をしたとい
う印象を全く受けておりません。それは寺
での修行が本学園の精神である「感謝の心」
と相通じていたからだと思っています。寺
の生活で様々な悩みを持つ人々と接してき
ましたが、川村学園で学んできたことを土
台に

僧侶として実践を行ったという感じがいた
します。着任してから学ぶことの多い毎日
ですが、今まで私が得た知識、経験をフル
活用して頑張りたいと思います。よろしく
お願いいたします。



小野博子
Hiroko Ono
心理学科学生研究室

今年の4月から本学の心理学科学生研究
室に教務補助として勤めさせていただいて
おります。私は、本学心理学科を卒業し、
今年で3年目になります。3年前「もう我
孫子の校舎を見ることがないのかも…」と、
寂しい気持ちで、学校を後にした私でしたが、
今年の3月に、2年程勤めておりました会
社を退職いたしましたので、4月から再び、
この我孫子に通っております。3年振りに
足を運んだ大学は、新校舎の建設工事が始
まり、授業のカリキュラムも大幅に変わ
り、就職協定がなくなったせいか、早い時
期からリクルートスーツで構内を歩する学
生が多数おり、母校にいたのに、自分の知
らない異世界に来てしまったような錯覚に
襲われています。仕事の方は、私が今まで
行ってきたような内容は全く異なり、初め
てのことづくしで、日々学ぶことばかりで
すが、頑張っていきたいと思っております
ので、どうぞよろしくお願いいたします。



鵜野絵里香
Erika Uno
社会教育学科学生研究室

今年の4月から本学の社会教育学科「学生
研究室」に勤めさせていただいてる。今年
の3月までは大宮市にある「留守家庭児童
育成室」に勤務しており、毎日小学生とド
ッジボールをしたり鬼ごっこをしたり、又、
一緒に勉強したりして過ごしていた。現在
は先生方の補助・先生と学生のパイプ役
といった事が主な職務で、以前とは全く異
なった職務内容、又環境であるため、非常
に新鮮味があり毎日楽しくはりきって仕事
に取り組んでいる。「人生は一度きり! でき
るだけ多くの事を学ぶ。」というのが私の
モットーであるので、本学は私にとって最
適の職場であると満足している。「学生研
究室」には、毎日の様に学生が相談をしに
来室する。そんな時には本学在学中に学
んだ「カウンセリング」などの知識を思い
出しつつ、一人一人懇切丁寧に対応するよ
う心がけたいと思っている。



村上典子
Noriko Murakami
一般教育課程教員控室

この春、情報教育学科を卒業し、4月か
ら一般教育教員控室に配属されました。
先生方をはじめ職員の方々には暖かく迎
えていただき、歓迎会を開いて下さいまし
た。初めの頃は、教わっ

たことが無く存じ上げない先生からお電
話があった時、名字をお聞きしてもそれが
先生なのか、職員なのか分からず、「○○さ
んからお電話です。」と取り継ぎしてしま
った事もありました。同じ学内であっても、
学生時代とはやはり気分が違い、これが
学生と社会人の違いなのかと感じ入る毎日
です。学生の時は学校の中で様々な人達の
働きによって毎日の学校の運営が成り立
っていることなど、あまり意識したことが
ありませんでした。今回勤めさせていただ
く機会を頂戴して、多くの方々働きが学
校生活を円滑にしているということを改
めて感じました。見えていなかった部分
が見えてきた気がします。最近仕事にも
少しずつ慣れてきましたが、まだまだ至ら
ないこともたくさんあります。これから
先生方や学生達のお役に立てるよう、ま
すます頑張っていこうと考えております
ので、どうぞ宜しくお願い致します。



山田浩司
Koji Yamada
学務部教務課

私は、昨年まで1年間、短大(長崎校舎)
の学生課に勤務しておりました。この4月
から大学の教務課に配属され、昨年とは
また違った業務・内容に毎日奮闘してい
るところです。学生課と教務課という、違
う部署でも余り抵抗なくこれからの仕事
に邁進していこうと思っております。短
大での、短いながらも貴重な経験や体
験をしたことが、自分にとって素晴らしい
財産になっています。この財産を充分に
生かし、がんばるつもりです。私の、最
近好きな言葉は「CAN」です。難しい事
も、自分を信じ、諦めずにがんばってい
くことが出来れば、いずれは答えを出し
てくれると思います。このことは、仕
事だけではなく、全てにおいていえるこ
とだと考えています。本学園にも少子化
の流れが、確実に影響してきていますが、
これからの学園の発展に微力ながらも、
尽力して参りますので、よろしくお願い
します。



加藤あさ子
Asako Kato
事務部庶務課

4年間、通い続けてきたキャンパスに4
月からは、職員として通うことになった。
4年間、過ごしてきたわけだから、慣れ
ているように思われるがほとんどが初め
てのことばかりである。そして、庶務課
は教授や先生方と接する機会が多い。今
までの学生の時とは違う立場で教授・先
生方と接するので、毎日が緊張である。
今は、周りの方々を見て、まねをして、
ついて行くのが精一杯である。学生の頃
は1限に時間通りに行くこともできなかつ
た私にとって、早起きして行くことも、
ひと苦勞である。しかし、恵まれた環
境の中で毎日、楽しく仕事をしている。庶
務課には、いろいろな仕事がある。どれ
も重要な仕事である。1つ1つ覚えて、
早く1人前になりたいと思う。

サークル活動報告

ゴルフ部

遂にリーグ戦 出場権を獲得！

わたくしたちゴルフ部は、現在2年生から4年生までの21名で活動しております。活動は週2回、柏市にある「美里ゴルフセンター」でプロによる指導を受け、練習に励んでおります。土日、祭日には、「新千葉カントリークラブ」でラウンドをさせて頂いております。また、春に2回、夏に2回と計4回にわたり合宿を行っております。'97年の夏には、初めて海外（グアム）での合宿を行いました。3月に行う宮崎合宿では、プロを交えてのラウンドでしたので技術的にも向上し、充実した合宿を行うことが出来ました。

今年の4月からは、『全日本学生ゴルフ連盟』に正式に加盟することが決まりました。先月の「月例会」では、本校から2名が出場し、いきなり3、4位という好成績により、「会長杯」と「リーグ戦」への出場権を獲得しました。8月には、「秋季リーグ戦」があるので、一人一人が目標を定め、部員が一丸となり、毎日の練習に励んでおります。全日本学生ゴルフ連盟加入でステップアップして再スタートしたばかりのわたくしたちですが、「継続は力なり」の精神で結果を出せるように頑張りたいと思います。

情報教育学科3年 田村香苗

〈注〉

会長杯：毎月の月例会の上位7名が各々出場権を得ます。（個人戦）

リーグ戦：毎月の月例会の上位30位以内に3名が入賞すると出場権を得ます。（団体戦）

演劇部

「えすばわーんど」 の世界へようこそ

演劇部『えすばわーんど』は、演劇をする楽しさと見て感じる楽しさを、たくさんの人に知ってもらい体験してもらおうという事を目的に、毎日の練習を頑張っています。1年を通して年に2回の公演を目指しています。



4月に行われた春公演は、初めての新2年生だけの公演でした。2月の下旬から練習を始め、いったいどんなお芝居にしようかと何度も話し合い、先輩方に意見を頂きながら、4月の本番まで春休み中もほとんど毎日大学に来て練習を繰り返しました。今回の公演は2年前の公演の再公演であるというプレッシャーもありましたが、2年生全員気持ちよく楽しく演じ切ることが出来ました。

秋公演は教室に手作り劇場を作り、『鶴雅祭』の二日間全3回公演を行います。昨年は鴻上尚史作の「トランス」を公演しました。二日間ともに盛況で、大勢のお客様に見ていただくことが出来ました。この公演のために夏休み中も大学に通い、朝は9時前から夕方まで毎日練習し、8月には合宿も行いました。

女性だけの演劇部というのは大学では珍しいと思います。キャスティングの面で「女性だけ」という事を不利に感じることもあります。女性が男性を演じるのははにかみと苦労が多く、台本にも限りが出てきます。逆に女性だからこそ和気藹々と舞台作りが出来るという利点もあります。重い機材（照明等）を運ぶのも、初めのうちは苦労し

ますが、慣れてくると、多少重いものは楽に持ち上げることが出来るようになります。公演を通して、部員全員と力を合わせ知恵を集めて舞台をつくっていくことで、たくさんの経験を通して色々なことを学ぶことが出来ました。この様な経験はどこの演劇部でも出来るものではないと思います。この「えすばわーんど」での活動が部員それぞれの中で本当に大切なものだからこそだと思います。来月からは今年度秋公演に向けての活動が始まります。今年も、皆さんに楽しんでいただけて、かつ私達が楽しんで出来る舞台を作るため頑張ります。

心理学科2年 小笠原 都

ダンス部

イサドラ・ダンカン をご存じですか？

川村学園女子大学ダンス部は、去年8月に神戸で行われた『オールジャパン・ダンスフェスティバル』、また11月には、1998年長野オリンピック冬季大会開催の前に、舞踊を通して人々の交流と相互理解を深め、世界平和の促進と学術研究に貢献することを目的に開催された長野オリンピック文化・芸術祭参加『世界舞踊祭』、そして12月には、東京都専門学校ダンス連盟による『ダンス発表会』に参加しました。大会前には部員全員が一体となり、毎日練習に励み、そして大会後には満足感を得るなど、様々な貴重な経験をし、皆それぞれに成長したと思います。

あっという間に1年が過ぎ、また今年も8月に神戸で行われる『オールジャパン・ダンスフェスティバル』に参加する予定です。『世界舞踊祭』では、森田先生のご指導を受け、イサドラ・ダンカン・ダンスのレパートリーを踊り、高いご支持を頂くことができました。今年の『オールジャパン・ダンスフェスティバル』でも、森田先生は在外研究（イギリス）のため7月中旬まで不在で、ご指導を受けることはできませんが、イサドラ・ダンカン・ダンスを踊ろうと思っています。また、このオールジャパ



ハンド ベル部

「天使の歌声」

ン・ダンスフェスティバルの他、学園祭（鶴雅祭）や専門学校ダンス連盟ダンス発表会など、踊る機会はまだまだあるので、今年もがんばって踊っていききたいと思います。

ダンス部は毎週、月・水・金曜日の4限または5限後に体育館で練習しています。初心者大歓迎です。うれしい時や楽しい時に思わず踊ってしまう人、踊ることが大好きな人、踊ってみたい人、是非ダンス部へ!!

社会教育学科2年 酒井亜美

〈注〉

イサドラ・ダンカン（1877～1927）は、アメリカ・サンフランシスコ生まれの偉大な革新的な舞踊家である。

ダンカン・ダンスの概念は、舞踊は自然でより精神的なものである。そして、人間性をより深く追求するべきものであるという考えに基づいている。

ダンカン・ダンスの特徴は、すべての動きが胸骨の奥深くから呼吸と共に動きが始まるのである。つまり、内的な要因からスタートし、外的な動きへと展開していく。主な動きは、日常の動きの中から素朴さ、単純さ、自発性、誠実さを表現し、人間の尊厳や生きる喜びをメッセージとした表現豊かなダンスを踊ったところである。

森田玲子先生は、イサドラブルズの直弟子に師事し、ダンカン・ダンス第四継承者として認定される。

英語英文学科3年 中崎鮎美



サークルリスト

バスケットボール部●コートの上を走りまわり、ゴールをめざします。ファイトゴルフ部●日焼けも気にせず、白いゴルフボールを追う、それが青春です。

テニス部●ボールを追いかけ、テニスラケットをふりまわします。

ラクロス部●クロスとボールをあやつり、ゴールをめざします。

バレーボール部●白いボールを追ってアタック！

スキー部●冬のスポーツといえばスキー、春・夏は、陸上トレーニングで頑張ります。

ダンス部●Let's Dance！ジャズダンスを中心に幅広く踊っています。

バドミントン部●つい最近できたクラブです。

タッチフットボール●今、話題のスポーツ、ラグビーボールを使い、芝生をかけめぐります。

ベースボールクラブ●女の子が野球に燃えています。

E・S・S●英会話で素敵なTeatimeをしてみませんか？

ハリウッド●映画のクラブです。

アートサークル・ソウル●美術系クラブです。

考古学研究会●皆で発掘しませんか？

華道部●静かな気分で、優雅に花を活躍のクラブです。

演劇部えすばわーんど●学園祭で行う劇は毎年好評です。

生涯教育研究会●ボランティアサークルです。

ウィンドアンサンブル●吹奏楽のクラブです。

ハンドベル部●やさしい音色に耳を傾けてみませんか？

ツヴァイディメンジオナル●マンガと自分たちでつくる文芸！一度必見あれ！

トレンスレーション●手話のサークルです。

情報研究クラブ●コンピュータを駆使した最先端のクラブです。

高齢者問題研究クラブ●老人ケアのボランティアをしています。

心理学研究会～ES～●心理テストを中心に勉強しているクラブです。

新聞同好会●月1回の割合で学内新聞bitsを発行しています。

弓道同好会●精神集中し、的にむかいます。

少林寺拳法同好会●礼に始まり、礼に終わります。

空手同好会●オリンピック種目の候補です。

フラワーアレンジメント●モダンな生花です。

青年赤十字奉仕クラブ●献血にご協力下さい。

田中美樹奈 英語英文学科1997年卒

私の働くクイーンズ美術館(那須)とは、イギリスの陶磁器、『ドルトン』の美術館です。この度4月29日にそのクイーンズ美術館に『ダイアナガーデン』という英国式庭園を併設させてリニューアルオープンしました。多くの人々にドルトンを見て親しんで頂ければと、入園入館は無料にしたばかりでなく、館内には英国の雰囲気を感じてもらおうと、輸入雑貨を扱うようにしました。そこでの私の仕事は、主に仕入れです。何度もイギリスに渡り、欲しいものはほぼ何でも手に入る日本で、なるべく目新しく楽しいものを探して悪戦苦闘しております。貿易や店舗の運営など初めての経験が多く戸惑うことばかりですが、今はその新たな経験や様々な人との出会いが楽しくてたまりません。今回私は幸運にもリニューアルオープニングスタッフに加わることができ、英国の伝統的な庭園造りにも携わりました。私は今まで好きな美術品など自ら興味のある事柄についての知識の宝庫を求めてきましたが、今は人との出会いが、次から次へと今まで知らなかった事柄を運んでくるようになったことに驚いています。これからは人との出会いを一番大切にしながら、その人達から教えられた知識を吸収し、自分のものになるよう努力していきたいと思います。今は毎日の決まった仕事ばかりでなく、初めて経験する緊張した仕事も楽しんでおります。また、近い内に英国に仕入れに行きます。

中島弥央 史学科1992年卒

先日、部屋の大掃除をしていたら、押入の奥から見慣れない段ボールを発見。何かと思ってあけてみると、大学生の頃、ゼミの発表で作ったレジュメや、卒業論文のために集めた資料がいっぱい詰まっています。思わず懐かしくなって、ひとつひとつをめくり、そして、卒業7年目に初めて、自分の卒論を読み返しました。なんて立派な卒論(?)でしょう。内容はともかく、60枚の原稿用紙を埋める方法を身につけていたことが今の私から見れば、賞賛に値します。大学を卒業した当時は、史学科の学生研究室に勤めていたこともあり、そのままだ、自分の卒論のテーマを研究しているかと思っていましたが、日常の生活の中で、そのような決心はどこかへ消えてしまいました。それと同時に、卒業して、1年、2年と経つうちに、自分の部屋の机の上にあった卒論関係の資料は本棚に移り、段ボールの中に入り、とうとう押入の奥まで追いやられてしまったようです。

少し黄ばんでいる資料を眺めながら、卒業してから時間の長さを感じ、毎日の生活に追われて、大学4年生の時のように、一生懸命勉強することを忘れてしまった自分を少し反省している今日この頃です。

今の私の生活には、何の関係もない卒論のテーマ。だからこそ、ちょっとした気晴らしや、趣味として、もう一度段ボールの中の資料を読んでみようと思い、大掃除の終わった部屋の机に、少しだけ、その置き場所を作ってみました。

小島幸枝 心理学科1994年卒

川村学園女子大学を卒業して、はや4年目の春を迎えます。この4年間、「とても早かった。」の、ひと言です。

現在、私は、TBSラジオ(AM954Hz)の954情報キャスターというお仕事に就いていて、この春で3年目を迎えます。

キャンペーン時代からマイクに慣れ、カラオケさえ歌えなかった私もアルバイトできたえられ、今はマイクをもち、話すことでお金をもらっています。

いずれはフォーミュラ・ニッポンのピットレポーターになりたい!という大きな厳しい夢をもちつつ、話術を習得しています。

何をやっているのか?ときかれれば…ウルトラマンの嵐隊員を皆さんはご存知ですか?毒蝮三太夫さんの人気長寿番組についてアシスタントをしたり、夕方の番組で3〜5分間の中継をしたり、また消防庁で、その日あった火災情報などを放送しています。一日として同じ日はなく、1週間、いえ1ヵ月があつたという間に…まるで“のぞみ”のように過ぎてゆくのです。

もっともっと伝える力をつけ、さらに飛躍するつもりです。若い皆さんもFMだけでなくTBSラジオ、AMも聴いて下さい。TVもいければラジオもいいですよ!!

前川英子 情報教育学科1997年卒

現在、私は小学校教諭の免許を取得するため、大手書店に事務系の契約社員として勤務しながら、某大学の通信教育課程に在籍している。職場には、私同様学校に在籍しながら勤務している方(二部および通信教育課程の学生)が多く、同僚も理解を示してくれるので、非常に恵まれた環境であると満足している。

実は、私にとって現在の状態に落ち着くまでの昨年一年間は、自分との闘いの年であった。

教師の道を目指すか、一般企業に正社員として就職するか。

『教免取得までの道のりは、けして楽ではない。その上、教師としての就職口もごくわずかである。それなら、潔く教師の道を諦めて、若いうちに一般企業への就職口を採った方がよいのではないか。しかし、今妥協してしまったら、それまでである。同じ台詞が、幾度となく脳裏を駆け巡った。

結局、私は悩み抜いた末、現在の状態を選んだ。将来への不安は、大いにある。しかし、今はとにかく前に進むしかないのだ。

伊吹英万里 社会教育学科1997年卒

私は、JAL契約制客室乗務員第8期生のスチュワーデスとして働き、約1年が過ぎようとしています。新人訓練では、ひと昔前の堀ちえみのドラマのように覚えることが膨大で、私に乗り越えることができるのか不安の毎日でした。しかし、同じ志をもつ仲間の支えもあり、完璧とまではいきませんがお客様の気持ちを主に考えるサービスをするようになりました。

飛行機を利用される方々は毎回違い、ビジネスで利用されているお客様とご旅行で利用されるお客様などさまざまです。その

「卒業生は今」原稿募集のお知らせ

「花時計」は、大学での現在をお伝えするために学内ばかりでなく、卒業生にもお送りさせていただくことになりました。「卒業生は今」のコーナーでは、卒業生からのひとこと(200字程度)をお待ちしています。卒業年度と学科を必ずお書き添え下さい。採用分には大学のテレフォンカードをさしあげます。

ような目的をお持ちのお客様お一人お一人に合ったサービスを考える幅広さに、この仕事の面白さを感じています。

私はこの1年間で、一番心に残っているお客様からの言葉があります。それは「君の笑顔にまた逢えるようにJALを利用するよ。」です。そのような言葉をいろいろな方々に頂けるように、日々努力しながら仕事にこれからも取り組んでいこうと思っています。

鈴木美香子 幼児教育学科1995年卒

川村学園女子大学を卒業して、はや3年経った。共に学んでいた友人たちは、それぞれの人生を歩んでいることと思う。

私は、教育学部幼児教育学科を卒業後、「もっと子どもについて学びたい」と思い立ち、玉川大学の通信教育部に入り、小学校教諭の免許取得を目指した。その間に、福島県の公立幼稚園の臨時教諭を勤めるチャンスがあった。臨時とはいえど担任という責任ある仕事であり、実際は大変なものであった。しかし、子どもたちのまっすぐな笑顔は、不安な自分を消し去り、逆に自分を大きく成長させてくれたように思う。

そして、運良く2年間で小学校教諭一種を取得でき、今は小学校教員採用試験合格を目指している。先に社会に出て活躍している友人たちを横目に見ながら焦った時期もあったが、自分なりの人生を、前向きに歩んでいきたいと思っている。

編集後記

●本年は段取りよく運んで、委員の願いどおり、夏休み前に、前期の号を出せました。(O)

●『花時計』も4号を見ることができ、発行も軌道にのってきましたこと感謝いたします。今後の継続のために、皆様のご感想などを引き続きお送り下さるようお願いいたします。表紙の写真で大学の四季をお楽しみ下さい。(K)

●いよいよ6階建て新校舎の工事も進み、JRの車窓からも良く見える様になりました。(W)

●『花時計』もこれで4号になりました。学園とのつながりを持っていたために、卒業生にも送付しています。その反響が何通かのお手紙になって現れてきました。今後大学「いま」を在学、卒業生、教職員の方々にお伝えしていきたいと思っています。(M)

発行日/平成10年7月1日第4号発行
制作/川村学園女子大学広報委員会
<http://www.kgwu.ac.jp/>